

令和元年度 土木学会西部支部沖縄会 総会

日時：令和元年 6月5日(水) 16時40分～17時10分

場所：厚生会館多目的ホール

議 事 次 第

進行：幹事長

1. 沖縄会会長あいさつ

2. 審議内容

【第1号議案】

平成30年度報告（案）

- | | | |
|-------------------|-------|-----|
| ① 平成30年度 事業報告（案） | _____ | P2 |
| ② 平成30年度 収支決算書（案） | _____ | P32 |

【第2号議案】

令和元年度事業（案）

- | | | |
|-------------------|-------|-----|
| ① 令和元年度 主要事業計画（案） | _____ | P34 |
| ② 令和元年度 予算書（案） | _____ | P38 |

【第3号議案】

- | | | |
|-----------------|-------|-----|
| 沖縄会規約の改定について（案） | _____ | P39 |
|-----------------|-------|-----|

3. その他

【参考資料】

- | | | |
|------------------------------|-------|-----|
| 参考－1 沖縄会特別会員B名簿 | _____ | P43 |
| 参考－2 土木学会西部支部沖縄会役員名簿（平成31年度） | _____ | P44 |

平成30年度 事業報告

1. 沖縄会運営委員会 (H30.7.12) 沖縄県立博物館・美術館 博物館講座室 参加：18名(委任状含む)
2. 沖縄会定期総会 (H30.7.12) 沖縄県立博物館・美術館 博物館講座室 参加：63名(委任状含む)
3. 講演会の開催
講演会『次世代に安心して繋ぐ社会基盤の創世 ～シビルエンジニアの使命と育成～』
(H30.9.12) 参加：137名
【主催：沖縄会】 場 所：沖縄県立博物館・美術館 講堂
4. 講習会等の開催
技術研究討論会『社会インフラ構造物の点検・診断技術者育成の課題と将来展望』(H31.1.9)
【共 催：沖縄会、SIP インフラ維持管理・更新・マネジメント技術】
場 所：琉球大学 研究者交流会館・50周年記念会館
5. 技術研究発表会等
土木学会西部支部沖縄会 第8回技術研究発表会 (H31.1.9)
【主催：沖縄会】 場 所：西原町 琉球大学 研究者交流会館・50周年記念会館
6. 広報活動
 - ①「橋の日」活動 (H30.8.3) 国道331号糸満高架橋(糸満市西崎) 参加：82名
【主催：沖縄会、共催：琉球大学工学部環境建設工学科、琉球大学土木同窓会、内閣府沖縄総合事務局開発建設部、沖縄県土木建築部、琉大工学部環境建設工学科土木コース(学生)、(一社)沖縄県測量建設コンサルタンツ協会】
 - ② 土木の日シンポジウム
『深刻な沖縄の道路交通問題の解決に向けて ～新たな交通環境の創造～』 (H30.11.21)
【主 催：沖縄の土木技術を世界に発信する会】
場 所：パレット市民劇場 参加者：316名
 - ③『土木・社会基盤の仕事高校生向けPRポスター No.11～No.16を作成し、県立高校59校及び私立高校4校へ配布。土木学会西部支部沖縄会のHPへ掲載
7. 土木技術者の確保・育成の取組
・人材確保・育成 WG 西原町 琉球大学 地域創生総合研究棟
(WG 活動内容:PR ポスター(No.11-16)を作成し、県立・私立高校へ配布および沖縄会 HP へ掲載)
8. インフラの劣化予測と残存性能の診断に関する小委員会
・インフラ構造物の維持管理診断技術に関する調査研究の実施。
委 員：大学2名，沖総局8名，NEXCO3名，しまたて1名，民間9名，沖縄県0名
委員会：委員会 2回(6/23, 9/21)，委員会作業 5回(7/28, 8/5～8/11, 8/13, 9/26～9/27 など)
活動内容：塩分センサによる塩分量測定，磁気を利用した非破壊検査の技術検証，
音伝播特性による疲労き裂探傷技術の検討

9.その他

幹事会

- | | | |
|---------------------|---------|-----------------|
| ① 第一回幹事会（H30.6.14） | 沖縄県庁 | 参加者：19 名（委任状含む） |
| ② 第二回幹事会（H30.12.17） | 沖縄総合事務局 | 参加者：17 名（委任状含む） |
| ③ 第一回幹事会（H31.4.16） | 沖縄総合事務局 | 参加者：18 名（委任状含む） |

平成 30 年度 土木学会西部支部沖縄会 講演会 報告書

(1) 実施要領

講演題目：次世代に安心して繋ぐ社会基盤の創成 ～シビルエンジニアの使命と育成～

主催：公益社団法人 土木学会西部支部沖縄会

共催：インフラメンテナンス国民会議 沖縄フォーラム

日時：平成 30 年 9 月 12 日（水） 14：00～17：00

場所：沖縄県立博物館・美術館（講堂） 沖縄県那覇市おもろまち 3-1-1

(2) プログラム

講演① 「土木 to the Future ～土木技術者の使命～」

片山 栄資（一般社団法人ツタワールドボク 代表理事）

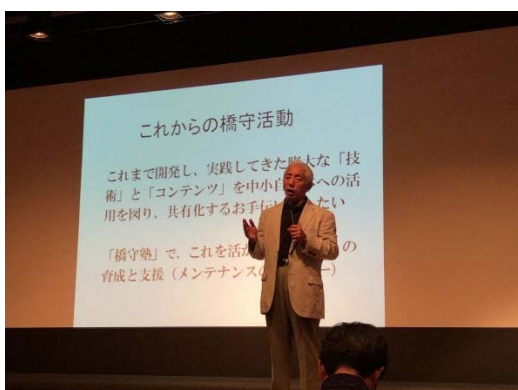
講演② 「地域活動における「橋守」の育成」

阿部 允（NPO 橋守支援センター 理事長）

(3) 参加者

137 名（事前申込：158 名）

(4) 当日の様子



土木学会西部支部沖縄会講演会

次世代に安心して繋ぐ社会基盤の創成 ～シビルエンジニアの使命と育成～

2018年9月12日（水） 14：00～17：00

沖縄県立博物館・美術館（講堂） 沖縄県那覇市おもろまち3-3-1

【主催】土木学会西部支部沖縄会

【共催】インフラメンテナンス国民会議 沖縄フォーラム

※ 本講演はCPD・CPDS対象講座です

開会挨拶：矢吹 哲哉

（公社）土木学会西部支部沖縄会会長（琉球大学名誉教授）

講演1

土木 to the Future ～土木技術者の使命～

講師：片山 英資（一般社団法人ツタワルドボク 代表理事）

講演2

地域活動における「橋守」の育成

講師：阿部 允（NPO橋守支援センター 理事長）

申込先
お問い合わせ

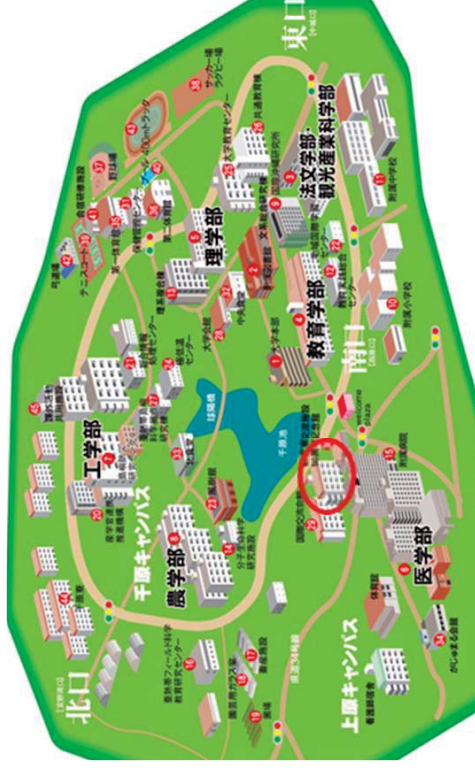
土木学会西部支部沖縄会（沖縄しまたて協会内）

FAX: 098-874-5301

E-mail : dobokuoki-jim@shimatate.or.jp

【参加料】 無料

会場案内



琉球大学西原口を入り、構内の信号を左に曲がり、左手すぐ。

○ 土木学会継続教育（CPD），CPDS 認定プログラム

第 8 回 土木学会西部支部沖縄会

技術研究発表会

琉球大学 研究者交流会館・50 周年記念会館

2019 年 1 月 9 日

発表プログラム



土木学会西部支部沖縄会

発表会プログラム

2019年1月9日

Time Table

Start	End	プログラム	
8:00	8:30	受付・登録	
8:30	8:45	開会式 〈多目的室〉 開会の挨拶：矢吹 哲哉（沖縄会会長・琉球大学名誉教授） 実施要項の説明：田井 政行（沖縄会幹事：琉球大学助教）	
8:45	9:00	Break	
9:00	10:30	Session 1 〈Room : A〉 8編 （材料・塩害） 座長：望月 拓郎（沖縄総合事務局）	Session 2 〈Room : B〉 9編 （維持管理(診断・補修・補強)） 座長：垣花 寿（川田建設）
10:30	10:45	Break	
10:45	12:15	Session 3 〈Room : A〉 9編 （交通・計画） 座長：小橋川 透（沖縄県）	Session 4 〈Room : B〉 9編 （環境・防災） 座長：山中 亮 （中央建設コンサルタント）
12:15	13:15	Lunch	
13:15	14:45	Session 5 〈Room : A〉 9編 （維持管理(点検・一般)） 座長：日和 裕介（首都高技術）	Session 6 〈Room : B〉 9編 （建設・整備） 座長：神谷 大介（琉球大学）
14:45	15:00	Break	
15:00	16:30	技術研究討論会 〈多目的室〉 「社会インフラ構造物の点検・診断技術者育成の課題と将来展望」 コーディネーター：琉球大学 下里 哲弘	
16:30	16:45	Break	
16:45	17:00	閉会式 〈多目的室〉 優秀発表者賞の表彰：矢吹 哲哉（沖縄会会長・琉球大名誉教授） 開会の挨拶：松島 良成（沖縄県）	

Presentation Schedule

Titles and Authors

- 発表時間：7分、質疑応答：3分
- 概要集：2頁～6頁（原則、偶数頁）

○注意事項

- ・発表者は、各発表セッション開始前に発表パワーポイントを会場パソコンにインストールし、動作状態を確認すること。
- ・発表者および聴講者は、土木学会西部支部沖縄会の会員登録をしてください。なお、土木学会正規会員または学生は登録の必要はありません。

Time	Room A
	Session1：材料・塩害 座長：望月 拓郎（沖縄総合事務局） - 環境作用を受けたセメント硬化体の物質移動性状に関する基礎的検討 琉球大学 長嶺 剛 須田 裕哉 藍檀 オメル 富山 潤 - セメント硬化体の炭酸化成変化に関する基礎的検討 琉球大学 豊里 剛人 須田 裕哉 富山 潤 藍檀 オメル - 沖縄県における塩害環境の定量的評価に関する基礎研究 琉球大学 木村 文哉 富山 潤 須田 裕哉 藍檀 オメル - 亜熱帯島嶼地域における大型台風襲来時の飛来塩分特性 琉球大学 金城 樹 下里 哲弘 田井 政行 淵脇 秀晃 - アルミ合金製の多機能防食デッキ内部の腐食環境調査 (株)横河ブリッジ 中野 麻衣子 井口 進, 琉球大学 下里 哲弘 田井 政行 澤田 知幸 - 塩化物系凍結防止剤に防錆剤を添加して散布した実橋に生じる腐食生成物の組成分析 興栄コンサルタント 畑佐 陽祐, 岐阜大学 木下 幸治, 岐阜大学大学院 連池 里菜 矢野 義知 - 琉球石灰岩層を杭基礎の支持層として採用するための基礎的研究 琉球大学 荒木 悠太郎 藍檀 オメル 渡嘉敷 直彦 堀内 清貴 - 衝撃荷重下における岩石の動的変形・破壊特性に関する実験的研究 琉球大学 神立 晋弥 藍檀 オメル 富山 潤 須田 裕哉
9:00 J 10:30	Room B
	Session2：維持管理（診断・補修・補強） 座長：垣花 寿 （川田建設） - 再生盛土材料を使用した鋼製帯状補強土壁の摩擦特性評価 ヒロセ補強土橋 佐原 邦明, 日本地研橋 井手 貴晴, 山口大学大学院 鈴木 素之 藤田 義成 - プレテンションPC桁のプレストレス導入時の端部水平ひび割れ抑制に関する研究 琉球大学 内田 凌太 富山 潤 須田 裕哉 藍檀 オメル - コンクリート構造物の表面ひび割れ画像を入力データとした均質化法による材料劣化予測に関する研究 琉球大学 古田 泰祐 富山 潤 須田 裕哉 藍檀 オメル, 大成建設(株) 堀口 賢一 本澤 昌美 - コンクリート橋梁の部位・部材毎の劣化違いを考慮したLCC評価に対する基礎的検討 琉球大学 有澤 希 富山 潤 須田 裕哉 藍檀 オメル - 既設F型橋脚板支柱に関する疲労耐久性向上研究の現況報告 中日本ハイウェイ・エンジニアリング名古屋(株) 小塚 正博, 岐阜大学 小原 健司 村瀬 紘貴 木下 幸治 - 腐食減肉が生じたトルシア型高力ボルトの残存軸力評価に関する解析的検討 琉球大学 川添 優人 下里 哲弘 田井 政行 有住 康則, 金秀鉄工(株) 長嶺 由智 - 腐食損傷した鋼桁端部に対する当て板ボルト補修法によるせん断耐力の回復効果の解析的研究 琉球大学 富永 泰志 下里 哲弘 田井 政行 有住 康則 長坂 康史 - 腐食凹凸面に対する当て板ボルト工法のすべり耐力評価に関する研究 琉球大学 坂本 健太 下里 哲弘 田井 政行 長坂 康史 有住 康則 - 長スパン化したバルブリブ鋼床版の疲労強度改善に関する研究 琉球大学 有馬 安倫 田井 政行 下里 哲弘, 日本橋梁建設協会 片野 俊一 井口 進

Time	Room A
	Session3：交通・計画 座長：小橋川 透（沖縄県） - パークキング・チケットの手数料支払・未払い行動に関する調査研究 北海学園大学 笠布 栄輔, 東海大学 梶田 佳孝 - 官庁施設における案内・誘導手法の検証～建物内外部でのサイン計画～ 沖縄総合事務局 宮崎課 玉城 裕之 長浜 政明 - ビッグデータを用いたヒヤリハット分析について 沖縄総合事務局 南部国道事務所 下地 涼大 伊藝 誠一郎 - 一人ひとりの少しの工夫で渋滞をなくそう「わった〜バス大実験」 沖縄総合事務局 道路建設課 富山 和季 大城 照彦 - 沖縄におけるクルーズ振興について 沖縄総合事務局 港湾計画課 高島 聡 奥儀 成也 - 平良港におけるクルーズ振興による「みなとまちづくり」の取り組みについて 沖縄総合事務局 平良港湾事務所 坂下 拓朗 長田 淳 - 石垣港大型旅客船ターミナル整備における岸壁部の取組 検討について 沖縄総合事務局 石垣港湾事務所 濱川 充典 伊是名 興治 - 訪日外国人レンタカー利用者の急制動箇所に関する基礎分析 琉球大学 比嘉 健人 神谷 大介, 中央建設コンサルタント 山中 亮, 長大 澤部 純浩, 沖縄総合事務局 新垣 康明 - ETC2.0とWi-Fiパベタセンサを用いた周遊観光把握の可能性の検討 琉球大学 佐藤 祐太 神谷 大介 田中 謙大, 中央建設コンサルタト 山中 亮, 地政未来研究所 菅 芳樹, 東京工業大学 福田 大輔
10:45 J 12:15	Room B
	Session4：環境・防災 座長：山中亮（中央建設コンサルタント） - 平成29年度啓開訓練の実施結果について 沖縄総合事務局 南部国道事務所 吉田 靖 新城 喜弘 - 那覇空港沖走路増設事業におけるサンゴの移植について 沖縄総合事務局 空港整備課 江崎 莊太 知念 直 - ダム湖内魚類の生息状況に関する簡易モニタリング方法の検討 沖縄総合事務局 河川課 津嘉山 力哉 内里 清一郎 - 那覇港におけるサンゴ移植モニタリングについて 沖縄総合事務局 那覇港湾・空港整備事務所 富田 和之 仲村 進一 - 中城湾港池地区における環境保全対策について 沖縄県中部土木事務所 竹市 浩二 安里 隆行 - 津波石の発生メカニズムに関する基礎的研究 琉球大学 下平 太 藍檀 オメル 渡嘉敷 直彦 - 超高齢社会水害時避難に関する基礎的考察 琉球大学 高橋 拓也 神谷 大介, 宮崎県 田中 正輝 - 琉球集落における防災WSの効果に関する分析 琉球大学 城間 聖 神谷 大介 - 除草作業における除草剤の活用について（報告） 沖縄総合事務局 南部国道事務所 漢那 清彦 知念 弘

Time	Room A	
	Session5：維持管理(点検・一般)	座長：日和裕介 (首都高技術)
13:15	1. 北郊ダム群調整水路の長寿命化に向けた取り組み 沖縄総合事務局 北部ダム総合管理事務所 金城 貴美 比嘉 浩	
14:45	2. 地域住民等による橋載管理の取り組みについて 沖縄総合事務局 北部国道事務所 照屋 淳 川間 重一	
	3. 地方中小橋梁の簡易的たわみモニタリングに関する検討 株式会社TTES 菅沼 久忠 梅川 雄太郎, 岐阜大学 木下 幸治	
	4. 複載加速度センサを用いた橋梁のたわみ算出方法に関する検討 株式会社TTES 梅川 雄太郎 菅沼 久忠, 岐阜大学 木下 幸治	
	5. 磁気を利用した非破壊検査機器によるブレンデッドPC鋼材破断位置判定 川田建設(株) 垣花 寿, コニカミノルタ(株) 森田 博 丸山 一直 阿部 真之介, コニカミノルタビジネスアソシエイツ(株) 橋本好之, 沖縄しまたて協会 玉城 喜章, 琉球大学 下里 哲弘	
	6. 磁気ストリーム法によるPC橋の内部鋼材破断を検知する非破壊検査ソリューション コニカミノルタ(株) 森田 博 丸山 一直 阿部 真之介, コニカミノルタビジネスアソシエイツ (株) 橋本 好之	
	7. 機械学習を用いた音伝播特性による疲労き裂の検出性能の評価 琉球大学 櫻井 絵里加, 東京工科大学 天野 直紀, 琉球大学 田井 政行 下里 哲弘, 南伸(株) 久米 仁司	
	8. 音伝播特性に着目した照明柱のき裂検出手法についての特性評価 東京工科大学 小林 誠治 天野 直紀	
	9. 電気抵抗法によるアンカーボルトの腐食域肉量の測定方法に関する研究 琉球大学 平山 勇太朗 潮脇 秀晃 田井 政行 下里 哲弘 有住 康則, 首都高技術(株) 日和 裕介	
	Room B	
	Session6：建設・整備	座長：神谷大介 (琉球大学)
13:15	1. 地域高規格道路南部東部道路におけるICT試行工事の事例紹介 沖縄県 南部土木事務所 歴安 広明 山入端 雅也	
14:45	2. モノレール延長事業における駅舎建設工事について 沖縄県 都市モノレール建設事務所 中本 吉平	
	3. 大型クルーズ船寄港に向けた岸壁改良工事について 沖縄総合事務局 那覇港湾・空港整備事務所 登坂 康二 名城 整	
	4. 与那原BP 3号橋計画におけるBIM/CIM活用検討について 沖縄総合事務局 南部国道事務所 上原 達也 松川 剛	
	5. 那覇北道路橋梁詳細設計におけるBIM/CIM活用事例について 沖縄総合事務局 南部国道事務所 城間 和樹 知名 広道	
	6. 那覇空港滑走路埋立工事におけるボックスカルバートの吸い出し防止対策について 沖縄総合事務局 那覇港湾・空港整備事務所 金城 和希 大城 直	
	7. 鋼管杭高止まりにおける検討 沖縄県 中部土木事務所 小橋川 直哉 小島 健太郎	
	8. P I手法を活用した道路事業の合意形成 沖縄県 北部土木事務所 照屋 将司 阿波根 庸夫 福地 保宗	
	9. 牧港大橋における新技術の活用状況について 沖縄総合事務局 南部国道事務所 山城 慶 新垣 敏一	

「社会インフラ構造物の点検・診断技術者育成の課題と将来展望」

会場：多目的室 (15:00～16:30) 90分

共催：・土木学会西部支部沖縄会

・SIPインフラ維持管理・更新・マネジメント技術

「亜熱帯島嶼に適した橋梁維持管理技術の美装と診断ドクターの育成(琉球大学)」

コーディネーター：琉球大学工学部附属地域創生研究センター 副センター長 下里哲弘
 討論メンバー：長崎大学大学院工学研究科インフラ長寿命化センター
 副センター長 中村聖三
 ：山口大学工学部附属社会基盤マネジメント教育研究センター
 センター長 麻生稔彦
 ：岐阜大学工学部附属インフラマネジメント技術研究センター
 准教授 木下幸治
 部長 加賀山泰一
 ：琉球大学工学部附属地域創生研究センター

【プログラム】

1、研究討論の主題：琉球大学 下里哲弘
 ：議題①：各機関の点検・診断技術者育成の取組み状況
 議題②：要求される技術者レベルと社会的課題
 議題③：新技術の活用促進について

2、各期間の取り組みと今後の課題 (各パネラーからのプレゼン)

1) 「長崎大学 道守養成ユニット」：長崎大学 中村聖三
 2) 「山口大学 社会基盤メンテナンスエキスパート」：山口大学 麻生稔彦
 3) 「岐阜大学 社会基盤メンテナンスエキスパート」：岐阜大学 木下 幸治
 4) 「阪神高速道路 人材育成制度」：阪神高速 加賀山泰一
 5) 「琉球大学 ブリッジインスペクター」：琉球大学

★討論 30分程度

議題①：現行の点検・診断技術者育成の課題
 議題②：必要な技術者レベルと社会的課題
 議題③：新技術の活用促進について

3、まとめ

2030年型定期点検への提言

『橋の日』イベント

実施報告書

平成 30 年 8 月

主催：土木学会西部支部沖縄会

1. 「橋の日」活動の概要

8月4日は「橋の日」として、私たちの生活と文化に密接なかかわりを持つ橋に感謝を込めて、橋の清掃活動を行っている。本活動は現在、全国47都道府県すべてに広がり、沖縄県では平成23年度以降連続開催し今年8回目を実施するものである。

2. 「橋の日」活動の目的

- ・ 橋に感謝し、橋の歴史や構造を学ぶ。
- ・ 橋に感謝し、橋とのふれあいの日にする。
- ・ 橋に感謝し、橋を大事にする心を育む。

3. 主催等

主 催：土木学会西部支部沖縄会

4. 共催（参加協力）

- ：琉球大学工学部環境建設工学科土木コース（学生）
- ：琉球大学土木同窓会
- ：内閣府沖縄総合事務局開発建設部
- ：沖縄県土木建築部
- ：（一社）沖縄県測量建設コンサルタンツ協会（測建協）

5. 活動内容

日付：平成30年8月3日（金）

時間：午前10時～12時まで

場所：国道331号糸満高架橋（糸満市西崎）

集合：国道331号糸満高架橋（糸満警察署付近の歩道橋、別紙参照）

内容：・ 学生による橋に関する説明

- ・ 測建協の出前講座
- ・ 糸満高架橋及び周辺の清掃
- ・ 橋のふしぎ探し

6. 参加者

- ・ 糸満市 西川学童クラブ

※学童の兄弟友人、保護者の参加を案内

- ・ 琉球大学
- ・ 沖縄総合事務局開発建設部
- ・ 沖縄県土木建築部
- ・ 琉球大学土木工学科・環境建設工学科土木同窓会
- ・ （一社）沖縄県測量建設コンサルタンツ協会
- ・ 土木学会西部支部沖縄会 会員

7. 当日のスケジュール

時刻	内容	留意点
9:45	集合場所：国道331号糸満高架橋	糸満警察署付近、別紙参照
10:00	開会式	司会：幹事長
	開会あいさつ	
10:05	糸満高架橋 概要説明 質疑応答	琉球大学学生
10:30	橋梁に関する講座	測建協
10:55	作業説明	事務局 作業範囲、注意点、「橋のふしぎ探し」の説明
11:00	「橋のふしぎ探し」及び清掃 糸満高架橋を散策しながらごみ拾い 糸満高架橋周辺でふしぎ探し 橋付近で記念撮影	・ごみは、集合場所付近に集積
11:20	作業終了	
11:25	「橋のふしぎ探し」発表及び解説	
11:45	児童クラブ 児童代表挨拶	感想など
11:55	閉会あいさつ	琉球大学土木同窓会長
12:00	昼食	解散後、各自昼食 立入禁止区域：無し

※集合、説明場所は糸満高架橋下とする。

8. 実施にあたっての役割分担等

(1) 費用負担

- ・土木学会西部支部沖縄会：昼食代、軍手代（80 組）、学童クラブご褒美代、保険（琉大学生 30 名、学童クラブ 40 名）＋ α
- ・琉球大学土木同窓会：Tシャツ代

(2) 役割分担

- ・実施計画書作成：技術・建設業課
- ・記者発表：技術・建設業課
- ・昼食手配、保険の手続き：技術・建設業課
- ・飲み物、学童クラブご褒美：技術・建設業課
- ・Tシャツ準備：琉球大学土木コース学生
- ・ゴミ袋、軍手、マイク、カメラ：技術・建設業課
- ・当日の司会：幹事長
- ・当日の監督係：沖縄総合事務局、琉大同窓会
- ・管理者への許可申請：技術・建設業課（必要無し）
- ・ゴミ処分：南部国道事務所

<備考>

- 第1回（H23.8.8） 国道 58 号 明治橋
- 第2回（H24.8.3） 国道 329 号 とよみ大橋
- 第3回（H25.8.2） 国道 58 号 新牧港橋
- 第4回（H26.8.6） 県道那覇内環状線 那覇大橋
- 第5回（H27.8.12） 県道 11 号線 真玉橋
- 第6回（H28.8.9） 与根高架橋
- 第7回（H29.8.9） 金城ダム公園内・ヒジ川橋

橋の日イベント(糸満高架橋) 集合場所



9.作業風景

(1)開会式あいさつ

下里先生の司会の下、矢吹会長による「橋の日」活動の目的及び概要説明が行われました。



(2)糸満高架橋についての説明

琉球大学学生による劇による橋の説明、沖縄県測量建設コンサルタント協会による橋の歴史、構造についての出前講座が行なわれました。



(3) 清掃活動

当日は天候が良く無事に糸満高架橋の周辺にあるゴミ拾いや草抜きを行いました。



(4) 記念撮影

糸満高架橋の下で記念撮影を行いました。



(5) 閉会式あいさつ

糸満市西川学童クラブの子どもたちによる挨拶、琉球大学土木同窓会の桃原一郎副会長による閉会の挨拶が行われました。

【継5:講習会等事業】 ②「沖縄の土木技術を世界に発信する会」活動

第23回シンポジウム

深刻な沖縄の道路交通問題の解決に向けて～新たな交通環境の創造～

日 時:平成30年11月21日(水)13:00～17:00

会 場:パレット市民劇場(参加人数316名)

開会挨拶 矢吹 哲哉(沖縄の土木技術を世界に発信する会 委員長)

来賓挨拶 小口 浩(内閣府 沖縄総合事務局 次長)

基調講演 「近未来における安全かつ円滑な都市交通システムの実現化」
講師:中村 文彦(横浜国立大学理事・副学長・教授)



委員長挨拶

パネルディスカッション

「深刻な沖縄の道路交通問題の解決に向けて」～新たな交通環境の創造～

コーディネーター:有住 康則(琉球大学法工学部 教授 工学部長)

パネリストー1:望月 拓郎(内閣府沖縄総合事務局開発建設部企画調整官)

パネリストー2:松島 良成(沖縄県土木建築部土木整備統括監)

パネリストー3:神谷 大介(琉球大学工学部工学科社会基盤デザインコース准教授)

パネリストー4:安里 昌利(一般社団法人沖縄県経営者協会特別顧問)

パネリストー5:栩野 浩(株式会社OTSサービス経営研究所代表取締役社長)



司会:崎山一葉



・来賓挨拶:小口 浩氏



・基調講演:中村 文彦氏



・講演状況



・コーディネーター:有住 康則氏



・パネリストー1:望月 拓郎氏



・パネリストー2:松島 良成氏



・パネリストー3:神谷 大介氏



・パネリストー4:安里 昌利氏



・パネリストー5:栩野 浩氏



・コメンテーター:中村 文彦氏



・パネルディスカッション



・全体質疑

開会挨拶

矢吹 哲哉

(沖縄の土木技術を世界に発信する会委員長)

来賓挨拶

小口 浩

(内閣府 沖縄総合事務局 次長)

基調講演

近未来における安全かつ円滑な都市交通システムの実現化

中村 文彦

横浜国立大学 理事・副学長・教授

1989年東京大学大学院工学系研究科博士課程を中退し、1989年東京大学工学部助手となる。その後1992年～94年アジア工科大学院助教授(海外派遣)、1995年横浜国立大学助教授、2004年横浜国立大学教授、2015年横浜国立大学理事・副学長に着任。主な著書に「バスがまちを変えていく～BRTの導入計画作法～」,「都市交通のモビリティ・デザイン まちづくりと公共交通を中心に」などがある。

テーマ講演会

司会総括

有住 康則

(琉球大学工学部教授 工学部長)

発表者

望月 拓郎

(内閣府 沖縄総合事務局 開発建設部 企画調整官)

松島 良成

(沖縄県 土木建築部 土木整備統括監)

神谷 大介

(琉球大学工学部 工学科 社会基盤デザインコース 准教授)

安里 昌利

(沖縄県経営者協会 特別顧問)

棚野 浩

(株式会社OTSサービス経営研究所 代表取締役社長)

深刻な沖縄の
道路交通問題の
解決に向けて
新たな交通環境の創造



平成30年11月21日(水)
13:00～17:00 パレット市民劇場

受付 12:30～

パレット久茂地9階

主催:沖縄の土木技術を世界に発信する会(土木学会西部支部沖縄会)

発信する会運営団体

(公社)土木学会西部支部沖縄会・琉球大学工学部工学科・
(一財)沖縄県建設技術センター・(一社)沖縄県建設業協会・
(一社)沖縄県測量建設コンサルタンツ協会・(一財)港湾空港総合
技術センター・(一社)沖縄しまたて協会

後 援

「土木の日」沖縄地区実行委員会【沖縄総合事務局開発建設部・沖縄県土木建築部・那覇
市都市みらい部・琉球大学工学部工学科・(一社)沖縄しまたて協会・(一社)沖縄県建設
業協会・(一社)日本建設業連合会九州支部】

NHK沖縄放送局、琉球放送・琉球朝日放送、沖縄テレビ放送、琉球新報社、沖縄
タイムス社、沖縄建設新聞

入場無料

定員:400名

CPD対象講座

お問い合わせ

「沖縄の土木技術を世界に発信する会」事務局 一般社団法人 沖縄しまたて協会 企画部企画課

TEL.098-879-2087 FAX.098-874-1901 E-mail shinpo@shimatate.or.jp

土木学会西部支部沖縄会幹事会人材確保・育成 WG H30 年度活動報告

WG 名	人材確保・育成 WG	WG 長	神谷 大介	幹事長	宮里 宏和
活動期間	平成 30 年 4 月 ～ 平成 31 年 3 月				
活動目的	沖縄県内における土木技術者の人材不足に鑑み、短期的・中長期的な人材確保・育成が必要である。このため、短期的には人材確保のための活動、中長期的には土木に興味・関心を持つ児童・生徒を増加させるための取り組みを行い、上記課題の解決に資することを目的とする。				
メンバー構成	琉球大学:神谷准教授(WG 長)、下里准教授、富山准教授 (一財)沖縄県建設技術センター:試験研究部長(幹事長) 沖縄総合事務局:技術管理官、技術管理課長 沖縄県:技術・建設業課 建設業指導契約監 (一社)沖縄県建設業協会:理事 (一社)沖縄県測量設計コンサルタンツ協会:専務理事 (一社)沖縄しまたて協会:技術環境研究所技術環境部長 (株)沖縄建設新聞:参与				
活動報告	高校生向け土木技術者 PR 用ポスター No.11～No.16 作成し、県立高校 59 校及び私立高校 4 校へ配布。沖縄会 HP に掲載。				
今後の活動計画と目標 (平成 31 年度)	昨年度と同様に高校生向けポスターの作成と配布、高校教諭との連携を行う。また、土木学会 教育企画・人材育成委員会とも連携し、目的に対して有効な取り組みに関する情報共有と活動実施を行う。				



仕事の紹介

地盤環境と防災に関する課題の解決

私たちは、人と自然、そして人工物が一体となった社会システムの中で生活しています。東日本大震災や熊本地震では、地震の発生に伴い、地すべりや岩盤崩落、地割れなどの多くの地盤災害が発生しました。地盤環境工学分野は、このような自然の脅威に立ち向かい、安全・安心な社会基盤を構築するために、地球を構成する地盤や岩盤の動き・性質を理解し、制御するための技術の研究開発に取り組みます。具体的には、フィールド調査によって現状を把握し、現象のメカニズムを実験によって明らかにするとともに、自然の脅威に打ち勝つための手法を生み出します。そして、コンピュータ・シミュレーションによって未来社会を予測します。また、持続可能な社会の構築を目論んだ新たな挑戦として、琉球諸島近海に賦存している海底資源の有効利用を目的とした研究開発にも取り組みます。



岩盤崩落



地割れ

地盤研究室での取り組み事例

岩盤の表層は長い年月の風化によって脆弱化し、最終的には岩盤崩落などの災害を誘発します。当研究室では、岩盤風化の物理的・化学的・生物学的な作用をフィールド調査や実験で明らかにし、これをシミュレーションできる技術の開発に取り組んでいます。最近は、理学系の研究者と手を組み、微生物の

代謝を利用した地盤環境修復技術の研究開発にも取り組んでいます。



Message

地球環境との対話を通じて人間社会に潜む重大な課題を見つけ、解決していく力を身につけたい方は、ぜひ、社会基盤デザインコースへお越しください。

松原 仁

八重山高校 / 琉球大学卒

官公庁や総合建設業、地盤調査系コンサルタントなどの技術者、大学の研究者として活躍しています。

卒業生・修了生の進路

- 企業局の仕事紹介
- 沖縄県での取り組み事例

仕事の紹介

沖縄県企業局

沖縄県企業局は、各家庭で使用される水を市町村等に配る仕事と工場等で使用される水ができるまで、様々な取り組みを行っています。他の行政とは違い、「経営・ビジネスも考えながら、公共性を保つ。県民に常日頃から直接評価される。」という得意な分野だと思います。

業務内容は、計画・設計・整備・維持管理など多岐に渡りますが、具体的な業務を紹介すると、水道施設を整備する際は、エネルギー効率を考慮し、自然環境に配慮しています。

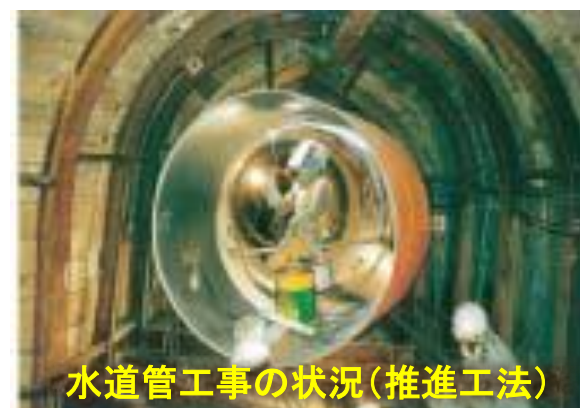
また、世界には、水道が直ぐに利用できる国ばかりではありません。その様な国への助言・指導などにも力を入れています。

水道に携わる人は、水道一家とよく表され、県・市町村などの関係機関が一体となって仕事をする雰囲気は、他の行政とは違った連帯感があり、心強いものがあります。

このように、様々な仕事があり、県民生活に直接関わる企業局の仕事は、重要でありやりがいのあるものです。



景観を配慮した石川浄水場



水道管工事の状況(推進工法)

沖縄県での取り組み事例

- ・ 安全で安心な水の供給
- ・ 災害に強い水道施設・システムの構築
- ・ 環境に配慮した施設整備の計画と実施
- ・ 50年、100年先の将来の事業継続を検討
- ・ 途上国への国際協力
- ・ 省エネルギー対策



国道沿いであり、周辺環境に調和したデザインで施工した長田川取水ポンプ場



水力発電

Message



・ 水道並びに工業用水に係る仕事は、県民生活に大変重要な役割を担っています。また、様々な社会現象に密接した仕事であり、将来の新たな計画など、検討しなければならない仕事があります。若い皆さまの新しい発想を期待しています。一緒に取り組む事を楽しみにしています。

具志川高校／琉球大学土木工学科卒
比嘉 悟



○ 沖縄総合事務局 開発建設部

道路、ダム、港湾、空港、公園、営繕施設の社会資本整備を行っています。

仕事の紹介

沖縄総合事務局 開発建設部 防災課

防災危機管理に関する業務

沖縄総合事務局が管理する、道路・ダム・港湾空港・公園施設の被害予防や被災した場合の復旧に関する総合調整・管理を行っています。

また、防災課では**防災訓練**の実施や、**各種防災計画**の策定、**防災啓発活動**（防災イベント）を行っています。

防災計画の一例 <道路啓開(どうろけいかい)計画>

地震発生後、直ちに救援・救助活動緊急物資の輸送等、迅速に行うための「**沖縄における道路啓開計画**」を策定しました。

○啓開拠点優先度の設定

- ・1次ルート(啓開目標:1日以内) ■
- ・2次ルート(啓開目標:3日以内) ■
- ・3次ルート(啓開目標:7日以内) ■

○**道路啓開**とは、緊急車両等の通行のため、1車線(約4.5m)でもとにかく通れるように早急に最低限の瓦礫処理を行い、簡易な段差修正により救援ルートを開けることをいいます。



防災訓練 <防災ヘリ>

○災害時において、いち早く現地に駆けつけ、防災ヘリによる情報収集活動を行っています。また、全ての職員が対応できるよう、若手職員を対象とした研修や訓練などを実施しています。



研修の様子①



研修の様子②



沖縄総合事務局 防災ヘリコプター

防災啓発活動 <9月1日は防災の日>

○震災の記憶を風化させることなく、教訓を今後の取り組みに活かす目的に毎年実施しています。



イオンライカムで行った防災イベント



Message



防災課は、「災害は忘れた頃にやってくる」を「備えあれば憂いなし」に変える仕事をしています。最近、沖縄でも発生のある最大約30mの津波を想定して、その対応に関係機関とともに検討することなどにも取り組んでいます。災害が発生しそうな時には真っ先に駆けつけるなど厳しい面もありますが、やりがいのある仕事です。一緒に働いてみませんか。

安仁屋 勉 / 那覇高 / 琉球大



●建設コンサルタントの紹介

- ・建設コンサルタントの役割と仕事内容
- ・沖縄県での取り組み事例

仕事の紹介

株式会社ホープ設計

(株)ホープ設計は、平成5年に設立し、2018年で26周年を迎えました。

設立当時は、社員7名で中古プレハブの社屋から出発し、現在は、平成27年2月に完成した新社屋に移動し、社員も78名となりました。

当社は、建設コンサルタントとして、顧客(国、県、市町村)のパートナーとしての役割を最大限に提供し、土木社会基盤整備のお手伝いをしています。また、主な仕事内容は、

- ①設計業務(道路、橋梁、斜面防災、上下水道、港湾・漁港、農業土木、公園等)
- ②維持管理業務、③測量業務、④土質業務、④システム開発・管理業務となっています。

当社は、2000年11月に県内建設コンサルタント初のISO9001を認証取得しており成果品の品質確保に努めています。また、照査支援室による厳しいチェックを行うことにより、さらなる成果品の品質向上を目指しています。

これからも、市民が安全・安心して暮らし、且つ、喜んで頂ける土木社会基盤整備を創り続けて参ります。

社員集合写真



設計照査状況



沖縄県での取り組み事例

伊是名フェリーバス完成予想図



デポアイランド前完成予想図



Message



建設コンサルタントの仕事は、自分が設計した土木構造物が、後世に残るものであり、子どもや孫に自慢できる職種です。現在、主に漁港関連の設計・維持管理に携っており、工事の際には必要に応じて発注者及び施工業者と調整し、土木構造物を完成させる喜びを感じています。今後の沖縄の発展のために、後世に自慢できる土木構造物と一緒に設計できることを楽しみにしています。

(株)ホープ設計 金城 和成 豊見城南高校 / 琉球大学卒

当社では、積極的にOJT、技術士資格取得のための個人指導、現場見学、教育訓練プログラム沿った外部での講習会(東京等)への参加を推進しています。

将来性 or 免許資格

● 仕事の紹介

- ・河川課での取り組み事例
- ・関連する免許・資格など

仕事の紹介

沖縄県は地理的条件から台風や集中豪雨が多く、洪水等の自然災害を受けています。このような自然災害から県民の生命と財産を守るため、河川の改修、ダムの整備等の治水事業を行っております。

また、川に対する人々のニーズも、治水だけではなく、沖縄らしい自然・環境・景観など多様なものとなってきたことから、人々の暮らしの中における川のあり方を新たに見直し、地域の特性を反映した「多自然川づくり」をすすめています。

沖縄の川づくりに対する理念

環境

山、川、海の豊かな自然が生きづく川づくり

治水・利水

人々の豊かさを守り、期待される機能を十分に果たす川づくり

歴史・ふるさと

歴史にいだかれ、郷土の豊かさと安らぎをもつ川づくり



比謝川(沖縄市)



金城ダム(那覇市)

河川課での取り組み事例



安里川水辺プラザ整備事業

都市河川が魅力ある街づくりに貢献できるように、オープンカフェ等を活用した賑わい空間の創出を図り、より多くの人々が集う観光拠点となることを目指して整備を行いました。

Message

河川課は、水害から人々を守るため河川を改修したり、景観や自然に配慮した河川の設計をしたりと土木分野のなかでも自然と関わる機会の多い職場です。また、安里川水辺プラザ整備事業にみられるように、都市計画や観光振興の分野においても貢献できるような河川整備を行っており、人と自然が繋がるような取り組みも行っています。

松田 達也

浦添高校 / 琉球大学卒

技術士(土木関係部門)
土木施工管理技士
ダム管理主任技術者
ビオトープ管理士

関連する免許・資格など

整備施設の紹介

那覇港クルーズ船バースは、那覇港の泊ふ頭地区に整備され、平成21年9月に供用を開始しました。

那覇港では、定期および不定期の国内外のクルーズ船が訪れる日本有数のクルーズ船寄港地であるにも関わらず、これまで貨物専用岸壁を使用しており、クルーズ船専用岸壁が無い状態が続いていました。

本施設が供用開始されたことで、クルーズ船の寄港数が増加し、クルーズ船専用岸壁供用開始後平成21年には年間57隻、海路での外国人観光客数約14万人^(※1)であったのに対し平成27年には年間115隻、海路外国人観光客数約42万人^(※1)となりました。

そのおかげもあり、近年好調な沖縄の観光産業の発展に大きく寄与しています。

私たちとしては今後も引き続き港湾の整備を通して沖縄の発展に貢献できるよう取り組んでいきたいと思っています。

※1：H27沖縄県観光要覧（沖縄県文化観光スポーツ部発行）

Message

自分の携わった仕事が目に見えて成果として残るこの仕事は、沖縄の基幹産業である観光を根幹から支える施設の整備であり、魅力と誇りある業務に携わっていると思います。

その反面、中途半端なものは許されないプレッシャーもありますが、たくさんの利用者に溢れた施設を見るととても達成感があります。

皆さんも、一緒に仕事に携わってみませんか？

金城 元気
沖縄工業高校卒

①那覇港クルーズ船バースの外観



②那覇港クルーズ船バースの利用状況



③夜間停泊中のクルーズ船



土木学会西部支部沖縄会技術委員会

インフラの劣化予測と残存性能の診断に関する小委員会

～平成30年度 技術小委員会 活動報告～

1. 今年度の活動状況

(1) 全体委員会

・第5回委員会（今年度第1回）

開催日時：2018年6月23日（土）14：00～16：00

開催場所：琉球大学工学部2号館大会議室，曝露場

参加人数：13名（オブザーバー14名，合計27名）

議 題：①前年度活動報告（写-1-1 参照）

②今年度の活動計画

③話題：鋼橋の腐食点検教育支援用3Dシミュレーターソフト（写-1-2 参照）

④NIMS塩分センサによる塩分測定実演（曝露場の劣化RC桁にて実演）



〔写-1-1 大会議室活動状況〕



〔写-1-2 シミュレータ操作確認状況〕

・第6回委員会（今年度第2回）

開催日時：2018年9月21日（土）14：00～16：30

開催場所：琉球大学工学部2号館大会議室，曝露場

参加人数：14名（オブザーバー4名，合計18名）

議 題：①これまでの活動報告

②話題提供：機械学習機能による打音検査法（写-1-3～4 参照）

・概要説明，実演説明，質疑応答（非破壊検査 小原様）



〔写-1-3 A I 打音検査実施状況 1〕



〔写-1-4 A I 打音検査実施状況 2〕

(2) 委員会作業

①塩分センサによる塩分量測定作業

実施日時：2018年7月28日(土) 13:30~17:00

実施場所：琉球大学工学部曝露場

参加人数：6名(オブザーバー1名, 代理出席2名, 計9名)

活動内容：①NIMS塩分センサによる劣化RC桁の塩分量測定(写-2-1~2 参照)

②測定箇所のコア抜き作業(7/30:砂川委員対応)



[写-2-1 曝露場における活動状況]



[写-2-2 塩分センサによる測定状況]

②塩分量滴定作業

実施日時：2018年8月5日(木) ~ 8月11日(土)

実施場所：琉球大学工学部 実験棟

参加人数：2名(構造研究室3名)

活動内容：コアの滴定による塩分測定(コア切断~滴定作業)(写-2-3~4 参照)



[写-2-3 粉砕機による作業状況]



[写-2-4 滴定作業状況]

③旧後原橋目視観察など

実施日時：2018年8月13日(月) 12:00~17:00

実施場所：旧後原橋(名護市)

参加人数：5名(オブザーバー2名, 計7名)

活動内容：旧後原橋の桁底面の目視, 打音点検(写-2-5~6 参照)



[写-2-5 目視点検マーキング作業状況 1]



[写-2-6 目視点検マーキング作業状況 2]

④旧後原橋の非破壊検査実装

実施日時：2018年9月26日（水）～2018年9月27日（木）

実施場所：旧後原橋（名護市）

参加人数：2名（共同研究者3名，計5名）

活動内容：旧後原橋の桁底面の磁気の利用による非破壊検査実装（写-2-7～10 参照）



〔写-2-7 非破壊検査機器〕



〔写-2-8 着磁作業状況〕



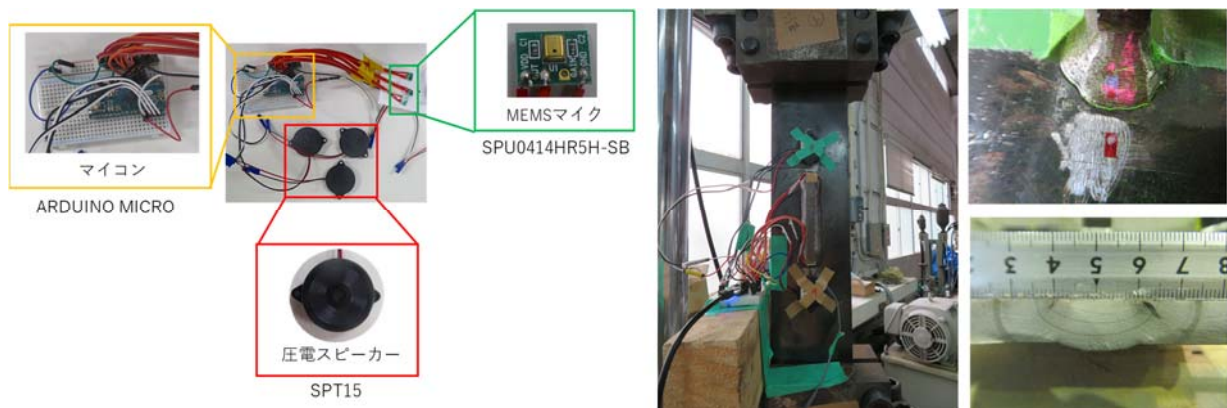
〔写-2-9 非破壊検査測定状況〕



〔写-2-10 測定結果確認状況〕

⑤音伝播特性の機械学習を用いた疲労き裂探傷

活動内容：疲労試験の実施と計測（H30 年度琉球大学）



〔写-2-11 音伝播計測装置と疲労試験状況〕

(3) 講演関係

①土木学会第 73 回年次学術講演会

開催日時：2018 年 8 月 30 日（木）～ 2018 年 8 月 31 日（金）

開催場所：北海道大学

参加人数：1 名（オブザーバー2 名）

講演内容：磁気を利用した非破壊検査機器によるプレテン桁の PC 鋼材破断検査（V-616）

②PC 建協保全補修部会移動部会（沖縄開催）における講演

開催日時：2018 年 11 月 26 日（月）～2018 年 11 月 27 日（火）

開催場所：平南橋（大宜見村），琉球大学工学部 2 号館会議室

参加人数：2 名（下里委員長，垣花幹事長）

活動内容：PC 建協の沖縄会技術小委員会の研究内容に関する講演（写-3-1～2 参照）

- ①亜熱帯島嶼海洋環境下における橋梁の維持管理の実態について（下里委員長）
- ②「インフラの劣化予測と残存性能の診断に関する小委員会」研究概要説明（垣花幹事長）



[写-3-1 講演状況①]



[写-3-2 講演状況②]

③第 8 回土木学会西部支部沖縄会 技術研究発表会

開催日時：2019 年 1 月 9 日（水）

開催場所：琉球大学 研究者交流会館・50 周年記念会館

発表件数：3 件

- ・磁気を利用した非破壊検査機器によるプレテン I 桁の PC 鋼材破断位置判定
- ・磁気ストリーム法による PC 橋の内部鋼材破断を検知する非破壊ソリューション
- ・機械学習を用いた音伝播特性による疲労き裂の検出性能の評価

2. 今後の活動計画

(1) 磁気を利用した非破壊検査の測定精度確認

…旧後原橋の研り検査実施（平成31年4月以降）

研り箇所の詳細検査〔ひび割れ幅、長さ、浮き範囲等〕

(2) NIMS塩分センサの測定精度、測定方法の確認

…実測定による測定結果が安定する測定方法と測定精度の確認

旧後原橋におけるNIMS塩分センサによる塩分量測定

研り片からの塩分量計測（研り前後）

(3) 音伝播特性を用いた疲労き裂探傷精度の確認

…試験体を用いてのき裂探傷データの蓄積、

塗膜上からの適用性の検証

(4) 委員会成果の報告会開催

3. 「インフラの劣化予測と残存性能の診断に関する小委員会」活動継続について

「インフラの劣化予測と残存性能の診断に関する小委員会」では、【橋梁インフラを対象とした非破壊検査と性能診断】をメインテーマとし、主に実塩害劣化桁に対する各種非破壊検査機器の性能評価に関する調査研究を実施している。非破壊検査については、コニカミノルタ（株）が研究開発中の「磁気を利用した非破壊検査機器」の研究協力を得て、平成29年度、平成30年度と旧後原橋において非破壊検査と本小委員会による計測視察（勉強会）を実施し、概ね良好な結果が得られ始めている。今後は非破壊検査機器の性能評価するために、上記の活動計画で示した研り作業を行い、PC鋼材の腐食・破断状況の調査が必要であるため、本小委員会の活動期間を2年間延長させていただくことをご承認いただけますようお願い申し上げます。なお、上記計画の実施については、沖縄しまたて協会「平成31年度技術開発支援事業」に採択されております（研究代表者：垣花寿幹事長）。

以上

土木学会西部支部 沖縄会 平成30年度収支決算書(案)

(単位:円)

収支科目	平成30年度 予算額 (a)	平成30年度 決算額 (b)	差異 (a)-(b)	備考
I 事業活動収支の部				
1.事業活動収入				
(1)会費収入	(315,000)	(310,000)	5,000	
①法人	315,000	310,000	5,000	5,000円*62社
(2)ランチ支援金	(120,000)	(120,000)	(0)	
	120,000	120,000	0	西部支部交付(世界に発信する会へ)
(3)事業収入	(70,000)	(35,000)	35,000	
①行事収入	70,000	35,000	35,000	
①-1総会会費収入	0	0	0	
①-2定例会会費収入	0	0	0	
①-3講演講習会収入	70,000	33,000	37,000	講習会等(2回) CPDS参加費
①-4研究調査発表会収入	0	2,000	△ 2,000	
(4)雑収入	(0)	(3)	△ 3	
①受取利息・配当金	0	3	△ 3	銀行利子
(5)繰入金収入	(0)	(0)	0	
①支所繰入金収入	0	0	0	
事業活動収入(A)	(505,000)	(465,003)	39,997	
2.事業活動支出			0	
(1)事業費支出	(648,000)	(414,890)	233,110	
①講習会費	200,000	143,938	56,062	講演会(1回)、講習会1回
②研究発表会費	58,000	50,374	7,626	印刷、記念品等
③広報費	225,000	190,914	34,086	橋の日・土木の日、ポスター郵送
④現場見学会費	90,000	0	90,000	バス借上
⑤その他、総会	75,000	29,664	45,336	会場借上、配布資料印刷
⑥拠出金	0	0	0	
			0	
(2)管理費	(35,000)	(22,470)	12,530	HP管理費等、残高証明書等
			0	
(3)繰越金支出	(0)	(0)	0	
①特別会計繰越支出			0	
事業活動支出計(B)	(683,000)	(437,360)	245,640	
事業活動収支差額(C)=(A)-(B)	△ 178,000	27,643	△ 205,643	
II 投資活動収支の部			(0)	
1.投資活動収入			(0)	
(1)特定貯金取崩収入	(0)	(0)	(0)	
①支部運営積立貯金取崩収入			(0)	
投資活動収入計(D)	(0)	(0)	(0)	
2.投資活動支出	(0)	(0)	(0)	
(1)固定資産取得支出	0	0	(0)	
(2)特定貯金支出	(0)	(0)	(0)	
①支部運営積立貯金支出	0	0	(0)	
投資活動支出計(E)	0	0	(0)	
投資活動収支差額(F)=(D)-(E)	0	0	(0)	
III 予備費支出(G)			0	
当期収支差額(H)=(C)+(F)+(G)	△ 178,000	27,643	△ 205,643	
前期繰越収支差額(I)	396,824	396,824	0	
次期繰越収支差額(H)+(I)	218,824	424,467	△ 205,643	

平成30年度 監査報告書

平成30年度(一社)土木学会西部支部沖縄会の収入・支出及び財産につき関係諸帳簿及び、証拠書類を監査の結果、適正かつ正確に経理されていることを確認する。

令和元年 5月 15日

監査役 国立大学法人 琉球大学 名誉教授

有住 康則 

監査役 (一社) 沖縄県測量建設
コンサルタンツ協会 会長

池村 弘 

令和元年度 主要事業計画（案）

1. 土木学会西部支部沖縄会総会

（1）企画内容等

年1回総会を開催する。

（2）開催日時：令和元年6月5日（水） 16:40～17:00

（3）開催場所：那覇市厚生会館

2. 講演会の開催

（1）テーマ：「インフラ センシングの実用化技術と近未来展望
～Society 5・0の社会インフラへの戦略的展開～」

（2）講演者・開催時期：

特別講演① 塚田啓二

（岡山大学 大学院ヘルスシステム統合科学研究科 電気通信工学科 教授）

特別講演② 菅沼久忠（株式会社TTES 社長）

県内講師 田井政行（琉球大学工学部附属地域創生研究センター 助教）

開催時期：2019年9月25日（水） 14:00～17:00（予定）

定 員：210名

開催場所：沖縄県立博物館・美術館 講堂

3. 講習会等の開催

（1）テーマ：「高炉スラグ細骨材を用いたプレキャストコンクリート製品の設計・製造・
施工指針（案）」の発刊に伴う講習会

（2）開催時期：

開催時期：2019年9月17日（火） 13:00～17:30（予定）

定 員：50名

開催場所：琉球大学地域創生総合研究棟1F多目的ホール

4. 技術研究発表会等

（1）企画内容等

沖縄会、沖縄総合事務局、沖縄県合同技術研究発表会を開催し、大学、主要発注機関、コンサルタント等から発表論文を募集し、より活性化を図る。年に1回開催する。

（2）開催日時

2020年1月（予定）

（3）開催場所

西原町 琉球大学

5. 広報活動

(1) 土木の日シンポジウム

- ・土木の日（11月18日）にあわせ、土木工学に係るシンポジウムを開催。
- ・開催日時：令和元年11月6日（水）13：00～17：00
- ・開催場所：那覇市 パレット市民劇場

(2) 橋の日イベント

- ・橋の日（8月4日）にあわせ、県内橋梁の歴史調査、清掃などを行う。
- ・開催日時：2019年8月9日（金）
- ・開催場所：琉球大学内 球陽橋

(3) 土木・社会基盤の仕事高校生向けPRポスター作成および配布、沖縄会HPへ掲載。

(4) その他

6. 現場見学会等

(1) 企画内容等

学校教員を対象とした講演会・現場見学会・意見交換会（人材確保・育成WGとの連携事業）。

(2) 開催時期

2019年7月～9月（予定）

(3) 開催場所：宜野湾北中城線（予定）

7. 土木技術者の確保・育成について

人材確保・育成WGにおいて、土木技術者の確保・育成のための効果的な活動内容について、教育機関等と引き続き協議を行い実施方法について検討を進める。

8. インフラの劣化予測と残存性能の診断に関する小委員会について

小委員会において、劣化したインフラ構造物を対象に、各種非破壊検査技術の性能検証やモニタリング技術の開発と、技術者の技量向上に資する調査研究を引き続き行う。

9. ホームページの管理・運営

各種事業の取組に合わせて適宜情報を提供し、広報等に活用。

2019 年度 土木学会西部支部沖縄会 講演会プログラム (案)

実施要領

講演題目：「インフラ センシングの実用化技術と近未来展望

～Society5.0 の社会インフラへの戦略的展開～」

主催：土木学会西部支部沖縄会

共催：インフラメンテナンス国民会議 沖縄フォーラム

日時：2019 年 9 月 25 日 14：00～17：00

場所：沖縄県立博物館・美術館（講堂） 沖縄県那覇市おもろまち 3-1-1

定員：210 名

プログラム

司会：須田 裕哉（琉球大学）

14:00 開催

14:00～14:05 主催者挨拶

沖縄会会長 矢吹 哲哉（琉球大学名誉教授）

14:05～14:45 講演 1（40 分：講演 30 分，質疑 10 分）

田井 政行（琉球大学工学部附属地域創生研究センター 助教）

14:45～15:45 特別講演 1（60 分：講演 50 分，質疑 10 分）

塚田 啓二（岡山大学大学院ヘルスシステム統合科学研究科電気通信工学科 教授）

15:45～16:00 休憩

16:00～17:00 特別講演 2（60 分：講演 50 分，質疑 10 分）

菅沼 久忠（株式会社 T T E S 社長）

17:00 閉会

対象者：行政関係者・業界関係者・一般・学生

CPD/CPDS 対象講座

参加料：無料

「高炉スラグ細骨材を用いたプレキャストコンクリート製品の設計・製造・施工指針（案）」の発刊に伴う講習会のご案内

主 催：土木学会西部支部沖縄会
日 時：2019年9月17日（火） 13:00～17:30
申込締切日：2019年9月3日（火）
定 員：50名程度（申込先着順）
参 加 費：無料（当日、指針を無料で配布します。）
会 場：琉球大学地域創生総合研究棟 1F 多目的ホール
CPD 対象講座

土木学会コンクリート委員会「SIP 対応高炉スラグ細骨材を用いたプレキャストコンクリート部材に関する研究小委員会（委員長：河野広隆 京都大学教授）」では、高炉スラグ細骨材を用いたコンクリートをプレキャストコンクリート製品に適用するための性能照査方法やコンクリートの製造方法、施工方法、品質管理方法について取りまとめることを目的として2年間の活動を行い、その成果をコンクリートライブラリー155「高炉スラグ細骨材を用いたプレキャストコンクリート製品の設計・製造・施工指針（案）」として整理しました。

本指針（案）では、高炉スラグ細骨材を用いたコンクリートによりプレキャスト製品を製造し、それを用いて構造物を構築する上で必要な留意点を示すとともに、RC部材ならびにPC部材の型式検査の例および施工実績等を付録として示しています。

この度、本指針（案）の講習会を開催することと致しましたので、奮ってご参加下さいますようお願い申し上げます。

○プログラム：

〔司 会〕須田 裕哉（琉球大学）

13:00～13:10	開会の挨拶	山田義智（琉球大学）
13:10～13:50	全体説明	綾野克紀（岡山大学）
13:50～14:30	1章 総 則，2章 BFS の品質，3章 BFS コンクリートの品質	佐川康貴（九州大学）
（休 憩）		
14:40～15:10	4章 設 計	二井谷教治（オリエンタル白石）
15:10～16:00	5章 配 合，6章 製 造，7章 施 工	藤井隆史（岡山大学）
（休 憩）		
16:10～16:40	8章 品質管理，9章 検 査	細谷多慶（ランデス）
16:40～17:20	【特別講演】ひび割れ画像解析技術の地域実装	富山 潤（琉球大学）
17:20～17:30	閉会の挨拶	富山 潤（琉球大学）

※プログラムは変更になる場合がございますが、御了承下さい。

■第24回シンポジウム開催概要（案）

2019年 土木の日関連行事

「建設業界での多様な人材の活用に向けて」

～女性の技術力活用が組織の生産性を向上させる～

開催日時：令和元年11月6日（水） 13:00～17:00（4時間）

場 所：パレット市民劇場（那覇市）

開催趣旨：

建設業界においては、少子高齢化・人口減少社会の本格的な到来による、労働力の減少が技術者担い手不足の要因となっており、その育成が重要課題となっている。

そこで、女性技術者の活躍を推進することにより、今までの建設業の仕事ぶりやあり方をダイバーシティ（多様性）の観点から、柔軟な視点で建設現場へ参画していくことで、コミュニケーションの活性化や、多種多様な問題解決策の糸口がつかめることが期待される。

本シンポジウムでは、建設業界での多様な人材の活用について、県内の現状と課題を踏まえ、女性技術者を育成していくうえでの解決策とその効果を提言するものである。

シンポジウムプログラム（タイムテーブル）：

13:00 開 会

13:00～13:05 主催者挨拶 （5分）

沖縄の土木技術を世界に発信する会 委員長 矢吹哲哉

13:05～13:15 来賓挨拶 （10分）

内閣府沖縄総合事務局 次長 小口浩

13:15～14:00 基調講演 （45分）

「建設技能者の担い手確保・育成について」（仮称）

講師：〇〇 〇〇

14:00～14:15 休憩 （15分）

14:15～15:45 テーマ講演 （80分+10分）（4名×20分）

「建設業界における女性技術者の技術力活用に向けて」（仮称）

講演①行政（沖縄県）：〇〇 〇〇

講演②民間（設計分野）：〇〇 〇〇

講演③民間（施工分野）：〇〇 〇〇

講演④民間（ICT分野）：〇〇 〇〇

15:45～16:00 休憩 （15分）

参加者から質問カードを回収し事務局で分類

16:00～17:00 トークセッション （60分）

「建設業界における女性技術者の技術力活用に向けて」（仮称）

セッション①：参加者への質問カードでトークセッション（30分）

セッション②：各パネラーの経験に基づくトークセッション（30分）

進行：〇〇 〇〇

パネリスト：※テーマ講演者4名

17:00 閉会

土木学会西部支部 沖縄会 令和元年度予算書(案)

(単位:円)

収支科目	令和元年度 予算額 (a)	平成30年度 予算額 (当初) (b)	差異 (a)-(b)	備考
I 事業活動収支の部				
1.事業活動収入				
(1)会費収入	(330,000)	(315,000)	15,000	
①法人	330,000	315,000	15,000	5,000円*66社
(2)ランチ支援金	(120,000)	(120,000)	()	支部交付金(発信する会へ)
	120,000	120,000	0	
(3)事業収入	(30,000)	(70,000)	△ 40,000	
①行事収入	30,000	70,000	△ 40,000	
①-1総会会費収入	0	0	0	
①-2定例会会費収入	0	0	0	
①-3講演講習会収入	30,000	70,000	△ 40,000	ここ数年の平均収入額を計上
①-4研究調査発表会収入	0	0	0	
(4)雑収入	()	()	0	
①受取利息・配当金	0	0	0	
(5)繰入金収入	()	()	0	
①支所繰入金収入	0	0	0	
事業活動収入(A)	(480,000)	(505,000)	△ 25,000	
2.事業活動支出			0	
(1)事業費支出	(648,000)	(648,000)	0	
①講習会費	200,000	200,000	0	講演会、講習会、会場借上げ費等
②研究発表会費	58,000	58,000	0	会場借上げ費、記念品等
③広報費	225,000	225,000	0	橋の日・土木の日、ポスター郵送費
④現場見学会費	90,000	90,000	0	バス借上げ費等
⑤その他、総会	75,000	75,000	0	会場借上げ費等
⑥拠出金	0	0	0	
			0	
(2)管理費	(35,000)	(35,000)	0	HP管理費等、残高証明書等
			0	
(3)繰越金支出	()	()	0	
①特別会計繰越支出			0	
事業活動支出計(B)	(683,000)	(683,000)	0	
事業活動収支差額(C)=(A)-(B)	△ 203,000	△ 178,000	△ 25,000	
II.投資活動収支の部			()	
1.投資活動収入			()	
(1)特定貯金取崩収入	()	()	()	
①支部運営積立貯金取崩収入			()	
投資活動収入計(D)	()	()	()	
2.投資活動支出	()	()	()	
(1)固定資産取得支出	0	0	()	
(2)特定貯金支出	()	()	()	
①支部運営積立貯金支出	0	0	()	
投資活動支出計(E)	0	0	()	
投資活動収支差額(F)=(D)-(E)	0	0	()	
III.予備費支出(G)			0	
当期収支差額(H)=(C)+(F)+(G)	△ 203,000	△ 178,000	△ 25,000	
前期繰越収支差額(I)	424,467	396,824	27,643	
次期繰越収支差額(H)+(I)	221,467	218,824	2,643	

土木学会西部支部 沖縄会 規約

(名称)

第1条 本会は、土木学会西部支部沖縄会（以下「本会」という）といい、土木学会西部支部ブランチ(分会) 制度細則（平成23年7月25日制定）に基づくものである。

(目的)

第2条 本会は、会員相互の土木技術の向上・研鑽・親睦交流、国際的視野に立った情報発信を行い、沖縄の自然・社会条件を踏まえた土木工学の発展と沖縄の振興および自立的発展に寄与することを目的とする。

(事業)

第3条 本会は前条の目的を達成するため、次の事業を行う

1. 土木工学に関する研究発表会、講演会、見学会、視察等の実施
2. 土木学会活動の沖縄地域への普及・広報活動
3. 会員間の親睦に寄与する行事
4. 土木工学に関する図書、印刷物の刊行
5. 土木工学に関する奨励、援助
6. 土木工学教育及び土木技術者教育への支援
7. 土木関係資料の収集・保管・公開
8. その他本会の目標達成のために必要な事業

(会員)

第4条 本会の会員は次の資格を有するもので構成する。

1. 正規会員
 - A 沖縄県内に在住するか又、県域内の土木工学にたずさわる土木学会正会員・フェロー会員・名誉会員
 - B 沖縄県内に在住する土木学会学生会員
2. 特別会員
 - A 沖縄県内に在住するか又は、沖縄県内の土木工学にたずさわりの、本会の目的事業に賛同する個人
 - B 沖縄県内に在所するか又は、沖縄県内の土木工学にたずさわりの、本会の目的事業に賛同する団体

特別会員は、入会后10年迄を原則とする。

特別会員の構成員は、将来的に土木学会正規会員となることが望ましい。

(入会及び会費)

第5条 特別会員に係る入会及び会費は次のとおりとする。

- 1 特別会員になろうとするものは、土木学会西部支部沖縄会細則(以下「細則」という)で定めるところにより入会手続きを行い、幹事会の承認を得なければならない。
- 2 特別会員は、細則(初年度は総会)において定める会費を納入しなければならない。
- 3 既納の会費は返還しない。

(退会)

第6条 特別会員で退会しようとする者は、所定の義務を完了した後、退会届を提出しなければならない

らない。また、特別会員の団体構成員は特別会員の退会と同時に退会したと見なす。

(除名)

第7条 会員が会(土木学会及び沖縄会)の名誉を傷つけまたは会の目的に反する行為をするに至ったときは、総会の議決によって当該会員を除名することができる。
特別会員の団体構成員は特別会員の除名と同時に除名とする。

(会員資格の喪失)

第8条 前2条の場合のほか、会員は、次に該当するに至ったときは、その資格を喪失することができる。また、特別会員の団体構成員は特別会員の資格喪失と同時に資格喪失とする。

1. 第5条の支払義務を1年以上履行しなかったとき。

(役員)

第9条 本会に次の役員を置く。

1. 会長 1名
2. 副会長 2名
3. 会計監事 2名
4. 運営委員 若干名
5. 幹事長 1名
6. 副幹事長 3名
7. 幹事 若干名

2) 幹事長、副幹事長は運営委員と兼務することができるものとする。

(役員を選任)

第10条 役員を選任方法は、次のとおりとする。

1. 会長および会計監事は本会に所属する会員の中から幹事会及び運営委員会の審議を経て総会で選任する。
2. 副会長は会長が委嘱する。
3. 運営委員、幹事長及び副幹事長並びに幹事は会長が委嘱する。

(役員の職務)

第11条 役員の職務は次のとおりとする。

1. 会長は、会を代表し、総会及び運営委員会の議長となる。
2. 副会長は、会長を補佐し、会長に事故ある場合その職務を代行する。
3. 会計監事は、本会の会計監査を行い、総会に報告する。
4. 運営委員は、本会に関する重要な事項について、会長の諮問に応ずる。
5. 幹事長は、会長及び副会長を補佐し、会務を処理する。
6. 副幹事長は、幹事長を補佐し、必要に応じて幹事長の職務を代行する。
7. 幹事は、幹事長及び副幹事長とともに幹事会を構成し、幹事長及び副幹事長を補佐して会務を執行する。

(役員の任期)

第12条 役員の任期は2ヶ年とする。ただし、再任は妨げない。

- 2) 任期中の異動等により任務の遂行が不可能となった場合、原則として前任者の所属する機関からの推薦を受けるものとする。この場合、任期は前任者の残存期間とする。

(総会)

第13条 会長は、毎事業年度終了後、総会を開催し、また、必要に応じて臨時総会を開催する。

- 2) 総会の議長は、会長がこれに当たる。
- 3) 総会は、次の事項について決議する。
 1. 沖縄会の事業報告及び収支決算の報告
 2. 沖縄会の事業計画及び予算
 3. 沖縄会の規約等の制定及び改正
 4. 会長、会計監事の選任
 5. その他、沖縄会運営に関する重要事項
- 4) 総会は、沖縄会に所属する正規会員及び特別会員Bの1/20以上の出席をもって成立し、出席者の過半数の賛成で決議する。ただし、委任状を提出した者については、出席者とみなす。

(運営委員会)

第14条 運営委員会は、会長、副会長、運営委員および会計監事をもって構成し、議長は会長がこれに当たる。

- 2) 運営委員会は、原則として年1回以上開催することとし、会長が招集する。
- 3) 運営委員会は、次の事項について決議する。
 1. 沖縄会の事業報告(案)、収支決算(案)
 2. 沖縄会の事業計画(案)及び予算(案)
 3. 会長候補者及び会計監事候補者の選出
 4. その他、沖縄会総会の権限に属するものを除く、沖縄会運営に関する基本的事項
- 4) 運営委員会は、運営委員の過半数の出席をもって成立し、出席者の過半数の賛成で決議する。ただし、委任状を提出した者については、出席者とみなす。

(幹事会)

第15条 幹事会は、幹事長、副幹事長及びすべての幹事をもって構成し、議長は幹事長がこれに当たる。

- 2) 幹事会は、原則として年2回以上開催するものとし、幹事長が招集する。
- 3) 幹事会は、総会で承認された事業計画及び予算に基づき、会務を執行するとともに、年度途中で発生した会務運営に関する事項の具体策を検討し、実施する。
- 4) 幹事会の運営については、幹事会が別途運営細則を定める。
- 5) 幹事会は、幹事の過半数の出席をもって成立し、出席者の過半数の賛成で決議する。ただし、委任状を提出した者については、出席者とみなす。

(委員会)

第16条 会長は、第3条の事業を行うために、次の委員会を設けるものとする。また、必要があるときは、原則として運営委員会の審議を経て、新たな委員会を設けることができる。

1. 沖縄の土木技術を世界に発信する会
2. 技術委員会
- 2) 各委員会は、会長が委嘱した委員長および委員によって構成する。
- 3) 各委員会の運営細則は、各委員会が別途定めるものとする。

(事業報告、事業計画、収支決算及び予算)

第17条 本会の事業報告、事業計画、収支決算及び予算は毎年度の当初において幹事会で作成し

運営委員会の承認を得て総会に諮るとともに、土木学会西部支部幹事会に報告するものとする。また、西部支部からの支援を受けようとする事業については、西部支部幹事会の承認を諮るものとする。

(経費等)

第 18 条 本会の経費は特別会費を徴しこれにあてるほか、西部支部からの交付金、事業に伴う収入および協力金による。

(会計年度)

第 19 条 本会の会計年度は毎年 4 月 1 日に始まり、翌年 3 月 31 日に終わる。

(事務所)

第 20 条 本会の事務所は浦添市勢理客 4 丁目 18 番 1 号、(一社)沖縄しまたて協会内に置く。

(規約の変更)

第 21 条 この規約は総会の決議を得なければ変更することが出来ない。ただし、軽微なものはこの限りでない。

(その他)

第 22 条 本会は土木学会定款、規則及び西部支部規定を遵守し活動を行うものである。

- 付則)
1. この規約は平成 23 年 9 月 20 日より施行する。
 2. 初年度は会長及び会計監事を総会で選任する。
 3. 初年度は特別会員 A、特別会員 B を総会で承認する
 4. この規約は平成 24 年 7 月 4 日より施行する。
 5. 平成 29 年 7 月 18 日一部改定
 6. 令和元年 6 月 5 日一部改定

沖縄会特別会員B名簿(団体会員)

番号	会社名	代表者	構成員数	備考
1	(一財)港湾空港建設総合技術 センター沖縄支部	支部長 小早川 弘	2	
2	西日本高速道路(株)九州支社 沖縄高速道路事務所	副所長 上原 盛久	2	
3	(一社)日本道路建設業協会 沖縄支部	支部長 与那嶺 恵信	2	
4	日本ファブテック 株式会社 沖縄営業所	所長 新垣 庸造	2	
5	(株)ピーエス三菱 沖縄営業所	所長 赤嶺 文繁	2	
6	(株)大本組 沖縄営業所	所長 鍋島 委己	3	
7	前田建設工業(株)九州支店 沖縄営業所	所長 若林 昭彦	1	
8	佐藤工業(株) 沖縄営業所	営業所長 梶原 仁	1	
9	(株)安部日鋼工業 沖縄営業所	営業所長 国吉 正哉	1	
10	極東興和(株) 沖縄営業所	所長 田原 俊彦	1	
11	東急建設(株) 沖縄営業所	所長 小園 幸広	1	
12	(株)鴻池組 沖縄営業所	所長 鮫島 秀喜	2	
13	東亜建設工業(株)	所長 町田 喜代寿	2	
14	(株)小波津組	代表取締役社長 小波津 英正	18	
15	(一財)沖縄県建設技術センター	理事長 宮城 理	3	
16	川田工業(株) 沖縄営業所	所長 比嘉 智	1	
17	(株)大林組 九州支店 沖縄営業所	所長 井出 直喜	2	
18	東洋建設(株) 沖縄営業所	所長 堀井 洋佑	2	
19	琉球開発(株)	社長 宮城 久雄	2	
20	鹿島道路(株) 沖縄営業所	所長 茂島 寿浩	1	
21	西松建設(株) 沖縄営業所	所長 吉田 卓生	1	
22	(株)大栄建設	社長 下地 米蔵	2	
23	(株)高橋土建	代表取締役社長 玉城 俊夫	2	
24	(株)大城組	代表取締役社長 仲西 聡	2	
25	若築建設(株)	所長 諸見川 和也	1	
26	仲程土建(株)	代表取締役社長 仲程 俊郎	1	
27	ドービー建設工業(株) 沖縄営業所	沖縄営業所長 金城 徹也	2	
28	コーアツ工業(株)	沖縄営業所長 友利 和隆	1	
29	飛島建設(株) 沖縄営業所	所長 長谷部 聡	1	
30	(一社)沖縄県建設業協会	会長 下地米蔵	2	
31	(一社)沖縄県測量建設コンサルタント協会	会長 池村 弘	2	
32	(株)大寛組	代表取締役 大濱 均	1	
33	(一社)沖縄しまたて協会	理事長 白波瀬 正道	4	
34	沖縄電力(株)	取締役配電部長 仲宗根 斉	2	
35	沖縄県港湾空港建設協会	会長 座波 博史	2	
36	(株)富士ビー・エス 沖縄営業所	所長 大城 敦	1	
37	(株)TTES	代表取締役 菅沼 久忠	1	
38	(一社)プレストレスト・コンクリート建設業協会 九州支部	九州支部長 長尾 徳博	2	
39	川田建設(株) 沖縄営業所	所長 渡久地 政胤	1	
40	五洋建設(株) 九州支店 沖縄営業所	所長 佐々木 秀尚	1	
41	宮地エンジニアリング(株) 沖縄営業所	営業所長 村島 康文	1	
42	(株)中央建設コンサルタント	代表取締役 砂川 秀樹	2	
43	(株)沖縄環境保全研究所	代表取締役 平良 辰二	2	
44	株式会社 沖 技	代表取締役社長 照屋 義明	14	
45	株式会社 ナカボーテック 沖縄営業所	所長 飛島 斉	2	
46	オリエンタル白石株式会社 沖縄営業支店	白石 俊夫	2	
47	牧港建設(株)	代表取締役 平良 平長	1	
48	南洋土建(株)	代表取締役社長 比嘉 森廣	14	
49	株式会社ウイング総合設計	代表取締役 宮城 良博	12	
50	株式会社 技建	宮野 伸介	12	
51	(株)南城技術開発	代表取締役 城間敏夫(土木学会正会員)	14	
52	金秀沖縄ピーシー(株)	代表取締役社長 宮 憲男	5	
53	永技研株式会社	代表取締役社長 前里 幸三	5	
54	(株)横河ブリッジ郡覇営業所	所長 真喜志 一寛	1	
55	NPO法人グリーンアース	代表理事 鈴木 浩一	4	
56	株式会社 プラズワイヤー	代表取締役社長 宮崎 文宏	2	
57	株式会社安藤・間 沖縄営業所	営業所長 片岡 善行	3	
58	(株)仲本工業	代表取締役 仲本 豊	2	
59	琉球セメント株式会社	代表取締役社長 中村 秀樹	2	
60	株式会社沖縄建設新聞	代表取締役社長 古謝 昇	1	
61	株式会社 オカベメンテ	代表取締役 岡部 成行	1	
62	西日本高速道路 総合サービス沖縄株式会社	代表取締役社長 藤本 秀勝	2	
63	鉄建建設株式会社 九州支店 沖縄営業所	沖縄営業所長 大園 光義	2	
64	金秀鉄工株式会社	代表取締役 川満 彦三	1	
65	株式会社 ホープ設計	代表取締役社長 親泊 宏	1	
66	株式会社 南伸	代表取締役 久米 仁司	1	
		小計	192	
	防衛省 沖縄防衛局	調達部長 井上 主勇	2	行政
	沖縄県 土木建築部	沖縄県 土木建築部長 上原 国定	5	行政
	沖縄総合事務局	沖縄総合事務局 次長 小口 浩	5	行政
	(独)都市再生機構 沖縄都市再生事務所	所長 中島 啓	2	法人正会員
	日本工営(株)	代表取締役 廣瀬 典昭	2	法人正会員
		小計	16	
		合計	208	

新規会員

H31年度 土木学会西部支部 沖縄会 役員名簿 (H31/4/1時点)

※太字部分が変更箇所

○ 運営委員会

役職等	氏 名	所 属
会 長	矢吹 哲哉	琉球大学名誉教授
副 会 長	小口 浩	内閣府 沖縄総合事務局 次長
副 会 長	上原 国定	沖縄県 土木建築部 部長
会計監事	有住 康則	琉球大学 名誉教授
会計監事	池村 弘	(一社) 沖縄県測量建設コンサルタント協会 会長
運営委員	照屋 寛志	沖縄県 土木建築部 土木整備統括監
〃	中島 靖	内閣府 沖縄総合事務局 開発建設部 部長
〃	和田 賢哉	内閣府 沖縄総合事務局 開発建設部 企画調整官
〃	井上 主勇	防衛省 沖縄防衛局 調達部長
〃	中野 拓治	琉球大学 農学部 教授 (削除)
〃	石垣 弘規	(一社) 沖縄しまたて協会 専務理事
〃	赤崎 勉	(公財) 沖縄県建設技術センター 理事長
〃	下地 米蔵	(一社) 沖縄県建設業協会 会長
〃	小早川 弘	(一財) 港湾空港総合技術センター 沖縄支部長
〃	座波 博史	沖縄県港湾空港建設協会 会長
〃	与那嶺 恵伸	(一社) 日本道路建設業協会 沖縄支部長
〃	川満 秀昭	沖縄電力(株) 送配電本部 配電部長
〃	本山 和幸	西日本高速道路(株) 九州支社沖縄高速道路事務所 副所長
〃	中島 啓	(独) 都市再生機構 沖縄まちづくり支援事務所 所長

○ 幹事会

役職等	氏 名	所 属
幹 事 長	下里 哲弘	琉球大学 工学部 教授
副幹事長	須田 裕哉	琉球大学 工学部 助教
〃	上原 啓文	内閣府 沖縄総合事務局 開発建設部 技術管理課長
〃	多和田 真忠	沖縄県 土木建築部 技術・建設業課長
幹 事	神谷 大介	琉球大学 工学部 准教授
〃	田井 政行	琉球大学 工学部 助教
〃	安元 純	琉球大学 農学部 助教 (削除)
〃	須々田 政宏	防衛省 沖縄防衛局 調達部 土木課長
〃	喜屋武 忠	(一社) 沖縄県建設業協会 理事
〃	神村 美州	(一社) 沖縄県測量建設コンサルタント協会 専務理事
〃	友寄 孝	(一社) 沖縄しまたて協会 技術環境研究所 技術環境部長
〃	仲松 辰弥	(公財) 沖縄県建設技術センター 試験研究部長
〃	金城 健	(一財) 港湾空港総合技術センター 主任テクニカル・エキスパート
〃	佐々木 秀尚	沖縄県港湾空港建設協会 副会長
〃	伊集 朝徳	(一社) 日本道路建設業協会 事務局長
〃	名護 理	沖縄電力(株) 送配電本部 配電部 配電センター長
〃	轟 彰雄	西日本高速道路(株) 九州支社沖縄高速道路事務所 統括課長
〃	伊藤 浩二	(独) 都市再生機構 沖縄まちづくり支援事務所 主幹
〃	石垣 伸	(一社) 日本建設業連合会九州支部沖縄支所 支所長